

1	今回の講義では、放課後デイサービスでの一人一人に丁寧に対応する様子に感銘を受けた。こどもの持つ特性を「障害」とは言わず、「苦手なところ」「練習が必要なところ」と捉え、対処する力をどのように補うかというスタンスでこどもと向き合っていくことは、ことも支援の基本だと思うが、放課後児童クラブでは、なかなか難しいのが現実だ。学童クラブのこどもたちもそれぞれ「苦手なこと」を持っていて、その事でトラブルになったり、失敗してしまったりすることがある。 児童支援員は、それを注意するのではなくどうすれば良いか補っていければ良いが、なかなかそのように出来ず反省の毎日である。お話しの中で、当たり前の時、しっかりできている時褒める事が少なくなりがちという事が出てきて、その通りだなと感じた。大袈裟に褒めずとも「ちゃんと見てるよ、頑張っていることを知っているよ」ということを伝えていきたいと思った。保護者の中にはなかなか我が子の特性を認められず悩んでいる人がある。保護者の話に耳を傾け、信頼関係を築き前向きな気持ちで対応し、支援していきたいと感じた。
2	今現在働いている職場では健常児と障害児を共に受け入れている。障害児も健常児と同じ環境でという保護者の方も少なくない。今回の研修で勉強になったのは、「障害」ではなく「ここが苦手としている」だから「練習していく」という事だ。それを聞いてから自分の中で凄く腑に落ちた。正直、障害だから仕方ないという諦めていた自分がいたからだ。仕方のない事は多々あるが、その子の苦手を少しずつ練習をして成長させてあげたいと思えるような研修だった。
3	子どもが困った行動をとるには必ず理由があるので、それを探る・試すを繰り返し、見つけられたら泣いたり怒ったりでなく、どうしたらいいのかを伝える。講師の先生が運営する所の動画で、①自分の気持ちを伝える練習②大人が真似して気づかせる方法③お腹にグーをあてて我慢する様子などが紹介され、勉強になった。見方によっては短所が長所に、長所が短所になる。子どもを決めつけずに、色々な観点から見ようと思った。

4	障害という表現を使わずに苦手なところ、練習が必要なところととらえることを徹底しているということだったので、さっそく真似したいです。職員同士での話し合いでは障害という言葉をつかっていることが多いので、相手や場面で使い分けるのではなく自分の考えを変えたいと思いました。また、保護者の方々がこどもの苦手なところを受け入れるということに葛藤があることを頭に入れておこうと改めて思いました。こどもの良いところを見つけて褒めるというのは職場みんなで普段からできていて、情報共有もしているのでこれからも続けたいです。齊藤先生のわからないことだらけで不安になるが、大人がわかろうとすることが大事だということばを、不安になったり迷ったときに励みにします。
5	支援員からの視点での障害児に対する適切な関わり方を学ぶ事ができた。 障害と呼ぶのではなく「苦手なところ、練習が必要なところ」と言い換えて携わっているところが流石だなと思いました。 つい障害と言葉にでてしまっていたので今後職員間でも意識して行きたいと思います。 気持ちを受け入れ、良いところに気づき、きちんとやっていることを褒める、認めるを大事にして関わって行くことがとても大切だということが勉強になりました。
6	特性のある子どもに対して、苦手なところを受け止め、本人の思いに真剣に向き合いながら、日頃から行動を観察して何が不足かを見立て実践していくことが重要だと感じた。 どうしても悪いところに目が行きがちで、咄嗟に注意する場面が多いが、子どもの良いところを認めた上で、適切な行動に変えるための声掛けをしていきたい。